

⑥刊行物に関する事業一覧

プロジェクト及び刊行物の名称	担当部門	頁
東京文化財研究所75年史編纂事業（情04）	企画情報部	89
『東京文化財研究所年報』（＊情05）	企画情報部	89
『東京文化財研究所概要』（＊情05）	企画情報部	89
『東文研ニュース』（＊情05）	企画情報部	89
平成19年度日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」（美04）	企画情報部	89
無形文化遺産部出版関係事業（無04）	無形文化遺産部	90
「保存科学」48号の出版（保04）	保存修復科学センター	91
第31回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書（保06）	保存修復科学センター	93
『平等院鳳凰堂 仏後壁 調査資料目録—カラー画像編—』（＊情01）	企画情報部	94
『孫過庭書譜光学接影検測報告』（情01）	企画情報部	94
『国宝伴大納言絵巻蛍光X線分析結果』（保01）	保存修復科学センター	94
『日韓共同研究報告書2008』（＊修01）	保存修復科学センター	95
『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2008年度』（＊修03）	保存修復科学センター	95
International Course on Conservation of Japanese Paper 2008（＊修05）	保存修復科学センター	95
『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成20年度（絵画／工芸品）』（＊修04）	保存修復科学センター	96
Issues Surrounding the Conservation of Modern Heritage（＊修06）	保存修復科学センター	97
Utilization of Railway Cultural Properties（＊修06）	保存修復科学センター	97
『未来につなぐ人類の技8 航空機遺産の保存と活用』（＊修06）	保存修復科学センター	98
『遺跡保存と水』（＊セ01）	文化遺産国際協力センター	98
『アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究』（＊セ02）	文化遺産国際協力センター	99
Conservation of monuments in Thailand IV（＊セ02）	文化遺産国際協力センター	99
『日中共同唐代陵墓石彫像保護修復プロジェクト～その経緯と成果～』（＊セ03）	文化遺産国際協力センター	100
『世界遺産・龍門石窟保護のための国際協力—その足跡と成果—』（＊セ03）	文化遺産国際協力センター	100
『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2008』（＊セ04）	文化遺産国際協力センター	101

『バーミヤーン遺跡保存事業概報－2007年度（第8ミッション）』（*セ05）	文化遺産国際協力センター	102
Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2007 -8th Mission-（*セ05）	文化遺産国際協力センター	103
Preliminary Report on the Environmental Investigation for the Conservation of the Bamiyan Site: 2005 and 2006 Seasons（*セ05）	文化遺産国際協力センター	104
『バーミヤーン仏教石窟出土樺皮仏典の保存修復』（*セ05）	文化遺産国際協力センター	105
『水浸木材の保存修復』（*セ06）	文化遺産国際協力センター	107
Conservation for water logged wood（*セ06）	文化遺産国際協力センター	107
『国際資料室蔵書目録』（*セ08）	文化遺産国際協力センター	108
『文化財保護関連法令集 イラク』（*セ07）	文化遺産国際協力センター	108
『各国の文化財保護法令シリーズ[3] 日本』（*セ07）	文化遺産国際協力センター	108
『各国の文化財保護法令シリーズ[4] ウズベキスタン』（*セ07）	文化遺産国際協力センター	108
『各国の文化財保護法令シリーズ[5] モンゴル』（*セ07）	文化遺産国際協力センター	109

- *注 ・『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』は、所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③情05）の一環として実施した。
- ・『平等院鳳凰堂 仏後壁 調査資料目録－カラー画像編－』は、高精細デジタル画像の応用に関する調査研究（①情01）の一環として実施した。
 - ・『孫過庭書譜光学接影検測報告』は、高精細デジタル画像の応用に関する調査研究（①情01）の一環として実施した。
 - ・『国宝伴大納言絵巻蛍光X線分析結果』は、文化財の非破壊調査法の研究（①保01）の一環として実施した。
 - ・『日韓共同研究報告書2008』は、周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究（①修01）の一環として実施した。
 - ・『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2008年度』は、伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究（①修03）の一環として実施した。
 - ・International Course on Conservation of Japanese Paper 2008は、国際研修第11回「紙の保存と修復」（⑤修05）の一環として実施した。
 - ・『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成20年度（絵画／工芸品）』は、在外日本古美術品保存修復協力事業（②修04）の一環として実施した。
 - ・Issues Surrounding the Conservation of Modern Heritageは、近代の文化遺産の保存修復に関する研究（①修06）の一環として実施した。
 - ・Utilization of Railway Cultural Propertiesは、近代の文化遺産の保存修復に関する研究（①修06）の一環として実施した。
 - ・『未来につなぐ人類の技 8 航空機遺産の保存と活用』は、近代の文化遺産の保存修復に関する研究（①修06）の一環として実施した。
 - ・『遺跡保存と水』は、文化財保存施策の国際的研究（②セ01）の一環として実施した。
 - ・『アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究』は、アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究（②セ02）の一環として実施した。
 - ・Conservation of monuments in Thailand IVは、アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化

- と保存に関する調査・研究（②セ02）の一環として実施した。
- ・『日中共同唐代陵墓石彫像保護修復プロジェクト～その経緯と成果～』は、龍門石窟の保存修復に関する調査研究 陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究（②セ03）の一環として実施した。
 - ・『世界遺産・龍門石窟保護のための国際協力―その足跡と成果―』は、龍門石窟の保存修復に関する調査研究 陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究（②セ03）の一環として実施した。
 - ・『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2008』は、敦煌壁画の保護に関する共同研究（②セ04）の一環として実施した。
 - ・『バーミヤーン遺跡保存事業概報―2007年度（第8ミッション）』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
 - ・Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2007 ―8th Mission―は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
 - ・Preliminary Report on the Environmental Investigation for the Conservation of the Bamiyan Site: 2005 and 2006 Seasonは、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
 - ・『バーミヤーン仏教石窟出土樺皮仏典の保存修復』は、西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（②セ05）の一環として実施した。
 - ・『水浸木材の保存修復』は、諸外国の文化財保存修復専門家養成（②セ06）の一環として実施した。
 - ・Conservation for water logged woodは、諸外国の文化財保存修復専門家養成（②セ06）の一環として実施した。
 - ・『国際資料室蔵書目録』は、国際資料室の整備（②セ08）の一環として実施した。
 - ・『文化財保護関連法令集 イラク』は、文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究（②セ07）の一環として実施した。
 - ・『各国の文化財保護法令シリーズ[3] 日本』は、文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究（②セ07）の一環として実施した。
 - ・『各国の文化財保護法令シリーズ[4] ウズベキスタン』は、文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究（②セ07）の一環として実施した。
 - ・『各国の文化財保護法令シリーズ[5] モンゴル』は、文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究（②セ07）の一環として実施した。

東京文化財研究所75年史編纂事業（⑥情04-08-3/4）

『東京文化財研究所七十五年史 本文編』を以下のような内容で刊行することをめざし、沿革編および調査研究編の原稿作成、校正を進めた。

【沿革】

前史

帝国美術院附属美術研究所時代

文部大臣直轄美術研究所時代

国立博物館附属美術研究所時代

東京国立文化財研究所時代

独立行政法人文化財研究所時代

【調査研究】

美術部

芸能部

保存科学部

修復技術部

情報資料部

国際文化財保存修復協力センター

管理部

【資料】

職員一覧

旧職員物故者略歴

年表

機構図

所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（*③情05）

『東京文化財研究所年報』『東京文化財研究所概要』『東文研ニュース』の刊行は、所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③情05）の一環として実施した。詳細は、61頁を参照。

平成19年度日本美術年鑑 刊行事業・出版事業「美術研究」（⑥美04-08-3/5）

『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、わが国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936（昭和11）年から始めた『日本美術年鑑』の編集を同所美術部が引き継ぎ2006（平成18）年度まで刊行を継続し、2007年4月に美術部が企画情報部となって、その編集・刊行事業を行っている。2002（平成14）年において、収録すべき情報の精選と分類の見直しをはかったが、今年度刊行した平成19年版においても、その方針を引き継ぎ編集した。平成19年版は、下記のような構成をとり、B5版396ページとなった



⑥刊行物 Area19

2006（平成18）年美術界年史

美術展覧会（企画展、作家展、団体展）

美術文献目録

定期刊行物所載文献

美術展覧会図録所載文献（企画展、作家展）

物故者

『美術研究』

1932（昭和7）年1月、当所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、約75年にわたり、日本・東アジアの古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文・図版解説・研究ノート・書評・展覧会評・研究資料を掲載している。年3冊刊行。本年度は以下の通り395号、396号、397号を刊行した。出版に際し、東京美術商協同組合より助成を受けた。



『美術研究』395号（20年度第1冊／2008年8月刊行）

（論文）鄭岩（加藤直子訳）「漢代喪葬画像における観者の問題」

（論文）綿田稔「自牧宗湛（下）」

（研究ノート）田中淳「尾高鮮之助と岸田劉生」

（研究ノート）小林未央子「なめらかな表面のために—小出櫓重再考—」

『美術研究』396号（20年度第2冊／2008年11月刊行）

（論文）渡邊雄二「聚光院方丈障壁画を語る文脈」

（論文）綿田稔「聚光院の成立時期についての一仮説—障壁画作期議論の前提として—」

（研究ノート）高橋秀治「藤雅三《破れたズボン》発見報告」

（展覧会評）「狩野永徳展」（綿田稔）

『美術研究』397号（20年度第3冊／2009年3月刊行）

（論文）林玲愛（守屋美佐子訳）「高句麗古墳の角抵図に登場する「西域人」のイメージ」

（論文）角田拓朗「満谷国四郎《自画像》の彷徨い—五姓田派の所在を問うことの意味—」

（図版解説）田中淳「萬鉄五郎《軽業師》および《太陽と道》」

（書評）「大西磨希子『西方浄土変の研究』」（津田徹英）

『無形文化遺産研究報告』（⑥無04-08-3/5：無形文化遺産部出版関係事業の一環として実施）

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料翻刻等を掲載している。

『無形文化遺産研究報告』第3号

高桑いづみ「X線透過撮影による能管・龍笛の構造解明」

近藤静乃「現行法会における付物・付楽の諸相

—2008年勤修の法会に関する調査報告—」



菊池理予「無形文化遺産としての工芸技術―染織分野を中心として―」

深津裕子「伝統工芸技術の記録と保存

―江戸時代後期の「葛布地道中着」に用いられた素材の復元を事例として―

森下愛子「近代京都の陶芸技術にみる古典へのまなざし―革新と復古の間で京焼陶工が目指したもの―」

大島暁雄「民俗行事の変化とその評価について―愛知県「鳥羽の火まつり」を例に―」

服部比呂美「立物花火の技術伝承―愛知県新城市東新町「立物保存会」の事例から―」

土田牧子「〔資料紹介〕梅村豊撮影歌舞伎写真」

飯島満「国立音楽大学附属図書館寄贈 竹内道敬旧蔵音盤目録（3）」

『無形民俗文化財研究協議会報告書』（⑥無04-08-3/5：無形文化遺産部出版関係事業の一環として実施）

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。その第3回に当たる本年度は「無形民俗文化財に関わるモノの保護」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。



テーマ「無形民俗文化財に関わるモノの保護」

I. 宮田繁幸「序にかえて」

II. 依木悟「趣旨説明」

III. 報告

*報告1 服部比呂美「年中行事における飾り物継承の諸問題

―七夕馬とツクリモノ―

*報告2 石井聖子「西塩子の回り舞台の復活と活用」

*報告3 橋本章「長浜曳山祭における曳山の保存と修復について

―祭りのなかで曳山を活かしつづける方途―

*報告4 田中彰・保木隆「江名子バンドリの製作技術の材料確保、保護するための取り組み」

IV. 総合討議

V. 参考資料

VI. アンケート結果

VII. あとがき

「保存科学」48号の出版（⑥保04-08-3/5）

所属研究員による文化財の保存と修復に関する科学的調査、研究、受託研究報告等の論文、報告および修復処置概報等を掲載している。

『保存科学』第48号

小椋大輔、銚井修一、李永輝、石崎武志、三浦定俊

「過去の高松塚古墳石室内の温湿度変動解析

―保存施設稼働時の気象条件の影響と、発掘直後の仮保護施設の影響―

呂俊民、佐野千絵、内呂博之、荒屋鋪透

「ポーラ美術館における室内空気清浄化のための火山ガスの調査」



- 森井順之、川野邊渉、山路康弘、柏谷博之「紫外線照射装置を用いた磨崖仏着生生物の除去」
朽津信明、二神葉子「飯田市・文永寺石室五輪塔における蘚苔類の繁茂について」
加藤雅人、木川りか、坪倉早智子、中山俊介
「二酸化炭素処理・酸化エチレン処理がジアゾタイプ複写物に及ぼす影響」
吉田直人「色材の“デジタルカメラ分光分析”に関する基礎的検討」
北野信彦・窪寺茂「三十三間堂の外観塗装材料である赤色顔料に関する調査」
佐藤香子・高林弘実・粕井基充・岡田健・范宇権・張文元
「敦煌莫高窟第285窟北壁に描かれた如来および菩薩の衣の彩色材料と技法—赤色表現を例として—」
高林弘実、倉橋恵美、范宇権、崔強「敦煌莫高窟第285窟南壁龕楣の彩色材料および技法」
大場詩野子、大竹秀実、高林弘実、渡辺真樹子、王小偉、柴勃隆「敦煌莫高窟第285窟壁画の保存状態」
早川泰弘「銅系緑色顔料の多様性とその使用例」
佐野千絵、早川泰弘、三浦定俊「国宝高松塚古墳壁画の材料調査の変遷」
北野信彦、小檜山一良、木下保明、竜子正彦、本多貴之、宮腰哲雄
「桃山文化期の輸入漆塗料の流通と使用に関する調査（Ⅱ）」
犬塚将英、福西大輔、石崎武志「熊本城「細川家舟屋形」の保存環境調査」
犬塚将英・佐野千絵・木川りか・石崎武志・建石徹
「国宝高松塚古墳壁画修理作業室の一般公開時における環境測定」
森井順之、犬塚将英、佐野千絵、石崎武志
「キトラ古墳保護覆屋内の環境について（4）—周辺風環境の解析および覆屋内環境監視—」
木川りか、佐野千絵、間瀬創、喜友名朝彦、立里臨、西島美由紀、杉山純多
「キトラ古墳の微生物等の状況報告（2008）」
間瀬創、佐野千絵、木川りか
「古墳等の高湿度作業環境下での使用を想定した木材保存剤のかび抵抗性試験とTVOC測定」
間瀬創、佐野千絵
「現地保存される古墳・遺構等における土壌及び石材に対する殺菌消毒剤の効果について」
吉川也志保、木川りか、関正純「昭和初期和紙の褐色斑からの真菌分離および蛍光に関する報告」
小峰幸夫、木川りか、原田正彦、藤井義久、藤原祐子、川野邊渉
「日光山輪王寺本堂におけるオオナガシバムシPriobium cylindricumによる被害事例について」
藤井義久、藤原祐子、原田正彦、木川りか、小峰幸夫、川野邊渉
「穿孔抵抗測定法を用いた文化財建造物の構造部材の虫害評価に関する一考察
—日光輪王寺における虫害を事例として—」
木川りか、鳥越俊行、今津節生、本田光子、原田正彦、小峰幸夫、川野邊渉
「X線CTスキャナによる虫損部材の調査」
木川りか、佐野千絵、石崎武志
「「殺虫／殺菌処理、防虫剤などについての緊急アンケート」調査結果について」
吉田直人、佐野千絵、石崎武志「展示公開施設の館内環境調査報告—平成19年度—」

第31回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書 (©保06-08-1/1)

2008年2月5日～7日に当研究所セミナー室で開催したシンポジウム「文化財の保存及び修復に関する国際研究集会—文化財を取り巻く環境の調査と対策」の各発表及び討論をまとめ、英語版を刊行した。



“The 31st International Symposium on The Conservation and Restoration of Cultural Property—Study of Environmental Conditions Surrounding Cultural Properties and Their Protective Measures”

Masami Fukuda: Environmental change and conservation of historic remains : In case study of Buddhist cave-temples at Mogao Grottoes, Dunhuang, northwestern China

Isabelle Pallot-Frossard, Geneviève Oriol, Faisl Bousta and Jean-Didier Mertz : Lascaux cave (France) : A difficult problem of conservation

Mancheol Suh : A geotechnical study for conservation of the Muryong Royal Tomb of the Baekje Dynasty, Korea

Takeshi Ishizaki, Sadatoshi Miura, Masahide Inuzuka and Mamoru Mimura : Thermal and moisture characteristics of Takamatsuzuka tumulus mound and its cooling

Vinod Daniel and Steve King : Environmental monitoring as a decision making tool

Geneviève Oriol, Faisl Bousta and Alexandre François : Lascaux cave : monitoring of microbiological activities

Rika Kigawa, Chie Sano, Takeshi Ishizaki, Sadatoshi Miura and Junta Sugiyama : Biological issues in the conservation of mural paintings of Takamatsuzuka and Kitora tumuli in Japan

Junta Sugiyama, Tomohiko Kiyuna, Kwang-Deuk An, Yuka Nagatsuka, Yutaka Handa, Nozomi Tazato, Junko Hata-Tomita, Miyuki Nishijima, Tomomi Koide, Yukio Yaguchi, Rika Kigawa, Chie Sano, and Sadatoshi Miura : Microbiological survey of the stone chambers of Takamatsuzuka and Kitora tumuli, Nara Prefecture, Japan: a milestone in elucidating the cause of biodeterioration of mural paintings

Daisuke Ogura, Masahide Inuzuka, Shu'ichi Hokoi, Takeshi Ishizaki, Hiroyuki Kitahara and Jiro Tarama : Control of temperature and humidity surrounding the stone chamber of Takamatsuzuka tumulus during its dismantlement

Mamoru Mimura and Mitsugu Yoshimura : Geotechnical properties of Takamatsuzuka tumulus and its stability

Mauro Bacci, Andrea Casini, Roberto Olmi and Marcello Picollo : Integrated non-invasive techniques for the diagnosis and conservation of mural paintings and other pictorial works

Yohsei Kohdzuma : Application of the hammering test and acoustic emission technique to stone cultural properties

Rudolf Plagge : Hygrothermal characterization of the Humayun sandstone

John Grunewald : Prediction of mold fungus formation probability on critical building components in residential dwellings

Delphine Lacanette and Philippe Malaurent : Lascaux cave and the climate change

⑥刊行物 Area21

『平等院鳳凰堂 仏後壁 調査資料目録—カラー画像編—』(①情01の一環として実施)

平成16年から17年にかけて平等院と共同で行われた鳳凰堂仏後壁の調査資料目録。カラー・蛍光・近赤外線による撮影のうち、平成20年度はカラー画像目録を刊行。分割撮影した全ての画像及び126点の部分画像を掲載している。

神居文彰「100年の基本資料」

鈴木規夫「本書の刊行にあたって」

凡例

撮影エリア目録

分割画像

部分画像



『孫過庭書譜光学接影検測報告』(①情01の一環として実施)

2004(平成16)年から継続して行って来た国立故宮博物院(台北)との共同研究の一環として、唐代の草書の優品である孫過庭「書譜」の光学的調査を行った。この書巻については、本紙の切断、折罫などが問題とされ、当初から伝来する部分の特定が待たれていた。高精彩画像、近赤外線画像、蛍光画像の検討をもとにした論考と、論考を支える有益な画像情報を公開すべく、報告書を以下の内容で刊行した。(A4版、157ページ、中日対訳)

目次：国立故宮博物院長序

東京文化財研究所所長序

書譜全巻カラー図版

調査の趣旨

本巻の現状

調査方法とその目的

紙継ぎと騎縫印

折罫と節筆

本巻の前半部と後半部の紙質

題箋と黄絹

調査結果のまとめ

附論：書譜の検証における光学的調査法について(城野誠治)

附録：全巻の分割と紙継ぎ・および行数に関する図



『国宝伴大納言絵巻蛍光X線分析結果』(保01の一環として実施)

出光美術館所蔵の国宝伴大納言絵巻(平安時代)について、蛍光X線分析による彩色材料の調査結果をまとめた。上・中・下巻を通して総数1300ポイントに及ぶ全測定結果を掲載し、その結果を解説している。(A4版、75ページ)
蛍光X線分析ポイント



早川泰弘 国宝伴大納言絵巻の蛍光X線分析
 蛍光X線分析結果一覧表

『日韓共同研究報告書2008』（①修01の一環として実施）

国際共同研究「文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究」に関する日韓共同研究報告書。
 大韓民国文化財庁・国立文化財研究所との共同刊行。

李讚熙、金知英、李明成「韓国 慶州石水庫の損傷度と微気候の分析」
 朽津信明「石塔で認められる彩色表現について」
 山路康弘「臼杵磨崖仏における紫外線照射装置を用いた生物除去について」
 韓旼洙、金思憲「雲住寺の石造文化財の保存法案の調査研究」
 森井順之「臼杵磨崖仏における凍結劣化防止策の検討—予測とその評価—」
 慎銀貞、金思憲「韓国の石造文化財の保存環境—保護閣を中心として—」



『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2008年度』（①修03の一環として実施）

刊行にあたって
 〈調査研究報告〉

坪倉早智子、加藤雅人「紙の繊維組成分析のための基礎的知見」
 北野信彦、山口加奈子「伝統的な漆器生産技術に関する基礎調査」
 早川典子、加藤雅人、坪倉早智子、菊池理予
 「東京文化財研究所 保存修復資料室所蔵 資料目録」の作成について
 （その2）」

〈研究会報告〉

- ・ 講演
 - 北野信彦（東京文化財研究所）「輸入漆塗料の流通と使用」
 - 日高薫（国立歴史民俗博物館）「輸出漆器の歴史と性格」
 - 宮腰哲雄（明治大学理工学部）「漆工品と漆塗料の分析」
 - 山下好彦（修復技術者）「輸出漆器の保存修復作業の問題点」
- ・ 総合討議
- ・ アンケート結果



International Course on Conservation of Japanese Paper 2008（⑤修05の一環として実施）

On the Publication of the Report on the International Course on
 Conservation of Japanese Paper 2008（刊行にあたって）
 Schedule（研修日程）
 List of Participants（研修生リスト）
 List of Lecturers（講師リスト）

⑥刊行物 Area21

1. Lecture (講義)

KATO Masato : 加藤雅人

「Paper Basics : 紙の基礎」

KAWANOBE Wataru : 川野邊渉

「Adhesives for the Restoration of Cultural Properties : 文化財修復に
用いられる膠着剤について」

YAMAMOTO Noriko : 山本記子

「Materials for East Asian Paintings and Their Use —Methods of
Adhesion— : 絵画材料とその技法から東洋絵画の修理を考える～接着の
方法について～」

IKEDA Hitoshi : 池田寿

「Preservation and Restoration of Paper Cultural Properties in Japan :
日本の紙文化財の保存と修復」

2. Practical Work — The Association for Conservation of National Treasures

(実習—国宝修理装飾師連盟)

Nori (Paste) : 糊

Kansu (Hand scroll) : 卷子

Sasshi (Book) : 冊子

Takejiku (Hanging scroll) : 掛軸

Byobu (Folding screen) : 屏風

Brushes : 刷毛

3. Study Tour (スタディーツアー)

Mino (美濃)

Kyoto (京都)

4. Discussion (ディスカッション)

5. Glossary (用語集)



『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成20年度(絵画/工芸品)』(②修04の一環として実施)

平成20年度、在外日本古美術品保存修復協力事業の対象作品の修復に関する報告。

報告書の刊行にあたって

在外日本古美術品保存修復協力事業報告

(絵画篇)

カラー口絵

1. 日吉山王祭礼図屏風

鈴木裕・中村隆博「修理報告」、江村知子「作品解説」

2. 多武峯維摩会本尊図

小島知英「修理報告」、塩谷純「作品解説」

3. 釈迦三尊十六善神像

山口聡太郎「修理報告」、津田徹英「作品解説」

4. 花鳥図屏風



鈴木裕・中村隆博「修理報告」、綿田稔「作品解説」

5. 阿弥陀三尊来迎図

半田昌規「修理報告」、勝木言一郎「作品解説」

(工芸品篇)

カラー口絵

1. 「源氏九曜紋蒔絵箔箱」 山下好彦
2. 「楼閣山水螺鈿筆筒」 勝又智志
3. 「花卉螺鈿ライティングビューロー」 小西美術工藝社
4. 「花円文虫蒔絵月琴」 北村繁

(海外工房における修復およびワークショップ) (ケルン東洋美術館)

1. 「花樹鳥獣蒔絵螺鈿洋櫃」 松本達弥
2. 「ワークショップ」 松本達弥・北村繁

Issues Surrounding the Conservation of Modern Heritage (①修06の一環として実施)

近代の文化遺産の保存修復に関する報告書

Foreword

About This book

Kawanobe, Wataru

Issues Surrounding the Conservation of Modern Heritage

Matsumoto, Junko

Conservation of Modern Cultural Heritage as “Cultural Property”

Nagashima, Hiroyuki

Restoration of Aircrafts as Cultural Heritage

Kishi, Yuichirou

Issues Surrounding the Conservation of Railway Heritage

Nakayama, Shunsuke

Issues Surrounding the Conservation of Steel Vessels in Japan
Designated or Registered Cultural Properties

Editor's Postscript



Utilization of Railway Cultural Properties (①修06の一環として実施)

近代の文化遺産の保存修復に関する報告書

Foreword

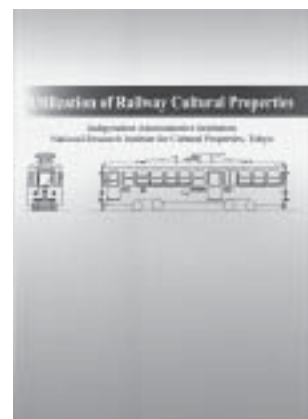
About This Book

〈Part 1 Utilization of Railway Cultural Properties〉

Nakayama, Shunsuke

On the Utilization of Railway Cultural Properties

Alfred Gottwaldt



⑥刊行物 Area21

Some Problems with Restoration of Historic Railway Vehicles

Rolf Hoehmann

Inventorisation and Preservation of Historic Railway Vehicles in German Collections

Joachim Breuninger

A New Approach to Handling a Large Collection — The DB Museum and Its Railway Vehicles

Morimoto, Toshi

Railway Preservation by a Private Volunteer Organization

Matsumoto, Shigeru

Conservation Activities for Railroad Culture by West Japan Railway

Comments

〈Part 2 Operation of Tramcars and the Conservation of Cultural Properties〉

Nakayama, Shunsuke

On the Operation of Tramcars and the Conservation of Cultural Properties

Fujimoto, Hideki

Maintenance and Preservation of Tramcars

Miyazaki, Teruaki

The History and Present Condition of Kumamoto City Tram

Endou, Noriyasu

Tramcar No.7504 Project — Darumakai Repainting the Tramcar and the Opening of Toden

Omoide Square

Comments

Editor's Postscript

『未来につなぐ人類の技 8 航空機遺産の保存と活用』(①修06の一環として実施)

はじめに

刊行にあたって

中山俊介 「航空機の保存・修復と活用」

平山助成 「零戦水上偵察機の保存処理」

長島宏行 「文化財としての航空機保存：一九一式戦闘機を例として」

デイブ・モリス 「第2次大戦の航空機 博物館の展示品？ アンティーク？ 遺跡？」

編集後記



『遺跡保存と水』(②セ01の一環として実施)

この報告書は、第22回国際文化財保存修復研究会で行われた報告、質疑応答、総合討議等の内容をまとめたものである。(2009年3月発行)

清水真一 「序」

朽津信明 「開会挨拶・趣旨説明 一水と付き合う遺跡保存一」

1 講演と質疑応答

リチャード・ヒューズ

「モエンジョダロ遺跡における水文学、水理学、地質工学—水との共存」

佐藤洋「仙台市富沢遺跡保存館における遺構保存の歴史と現状」

ニコラ・セベリーノ、バオロ・カプート「バイア水中公園：その保存と公開」

2 総合討議と総括

朽津信明「研究会総括」

発表者紹介

参加者名簿



『アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究』(②セ02の一環として実施)

この報告書は、「アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究」による平成20年度分の成果をまとめたものである。(2009年3月発行)

1. 研究費及び研究組織
2. 研究概要
3. 研究成果
4. 資料



Conservation of monuments in Thailand IV (②セ02の一環として実施)

この報告書は、平成20年9月4、5日にタイ・バンコクのナショナルギャラリーにおいてに行われた、日・タイ共同研究成果報告会の内容をまとめたものである。(2008年12月発行)

Opening Address

Shin'ichi Shimizu

Address of the Director

Nobuaki Kuchitsu

History and Present Conditions of Collaboration between Japan and Thailand

Takeshi Ishizaki

Deterioration Mechanism of Brick and Stone Used for Historical Buildings and Monuments

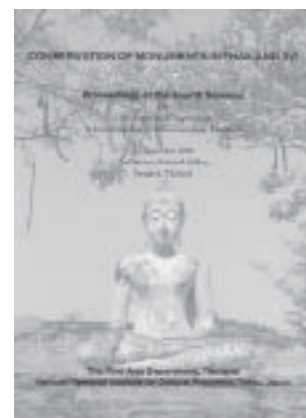
Yoko Futagami, Hiro'omi Tsumura

Measurement and Assessment of Deterioration of a Brick Monument at Wat Maha That, Ayutthaya by Digital Photogrammetry

Chiraporn Aranyanark

Mortars, Renders and Plasters for Conservation and Repair of Masonry Structures

Makiko Miyauchi, Shuichi Hokoi, Daisuke Ogura, Tomoko Uno



⑥刊行物 Area21

Effect of Algae on Monuments in Hot and Humid Climates
Kitcha Yupho, Kongkiert Tankayura
How to Stop Rising Damp?
Jeetheng Piyakarn
The Conservation of Wat Prasert Suthawas Ordination Hall Project
Nobuaki Kuchitsu, Yoko Futagami
Effect and Problems of Hydrophobic Treatment of Monuments for Conservation
Nuanlak Watsantachad
Weathering Durability of Laterite in Thailand and Its Suitability to Be Used as a Building Material
Closing Address

『日中共同唐代陵墓石彫像保護修復プロジェクト～その経緯と成果～』（②セ03の一環として実施）

本報告は、平成16年度に開始された東京文化財研究所と西安文物保護修復研究所の共同による「陝西唐代陵墓石彫像保護修復プロジェクト」（5年間）の活動内容の概略を示すものである。



- はじめに
- プロジェクトの経緯
- 一、プロジェクトの発端
- 二、準備段階
- 三、東文研の役割
- 四、指導委員会・専門家委員会の設置と会議開催
- 五、陝西省の文化遺産保護における本プロジェクトの位置付け
- 六、プロジェクトの特徴
- 七、作業経過
- 八、日本が中国の文化遺産保護活動に協力することの意味
- 合意書
- 作業計画書
- 年度別報告
 - 2004年度～2005年度（2年一括）
 - 2006年度
 - 2007年度
 - 2008年度

『世界遺産・龍門石窟保護のための国際協力—その足跡と成果—』（②セ03の一環として実施）

平成20年9月から21年3月までの間、研究所エントランスにおいて同タイトルのパネル展示を行ったのを機会に、掲示した内容をパンフレットとして作成し、来訪者および関係機関・専門家等へ配布した。

はじめに

1. 龍門石窟の概要と保護
2. 国際協力の発端
3. ユネスコ/日本信託基金龍門石窟保護修復プロジェクト
4. 人材育成
5. 写真撮影と画像データ管理システム構築のための共同研究
6. 東文研所蔵龍門石窟拓本資料



『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2008』（②セ04の一環として実施）

本報告は、平成18年度に開始された東京文化財研究所と敦煌研究院の共同による第5期「敦煌壁画の保護に関する日中共同研究」（3年間）の第3年目活動内容の概略を示すものである。



1. 岡田健「はじめに」
 2. 岡田健、蘇伯民、高林弘実「2008年度活動概要」
 3. 2008年日中共同調査報告
 - 3.1 初井基充、柴勃隆、王小偉、毛嘉民、丁淑君「第285窟壁画の光学調査」
 - 3.2 大場詩野子、渡辺真樹子、高林弘実、王小偉、柴勃隆「敦煌莫高窟第285窟壁画の保存状態」
 - 3.3 高林弘実、佐藤香子、崔強、張文元、范宇権、倉橋恵美「顕微鏡による第285窟壁画の表面観察」
 - 3.4 高林弘実、范宇権、于宗仁、崔強、張文元、李娜「第285窟壁画の分光反射率測定」
 - 3.5 高林弘実、佐藤香子、張文元、崔強、范宇権「携帯型蛍光X線分析装置による第285窟壁画に使用された材料調査」
 - 3.6 高林弘実、郭青林、陳港泉、中村俊夫、于宗仁、趙林毅、岡田健「莫高窟初期窟の放射性炭素年代」
 - 3.7 高林弘実、倉橋恵美、范宇権、崔強「敦煌莫高窟第285窟南壁龕楣の分析調査」
 - 3.8 倉橋恵美、樊再軒、高林弘実、岡田健「莫高窟第285窟南壁龕楣の復元模写」
 - 3.9 佐藤香子、高林弘実、初井基充、岡田健、范宇権「樊再軒敦煌莫高窟第285窟北壁に描かれた如来および菩薩の衣の彩色材料と技法―赤色表現を例として―」
 - 3.10 芹生春菜、柴勃隆、初井基充、高林弘実、王小偉、岡田健「莫高窟第285窟北壁・東壁銘文解読―供養者および説法図尊像の題記を中心に―」
 4. 岡田健「敦煌研究院保護研究所研究員の来日研究」
 5. 岡田健、樊再軒「日本人若手研修報告」
 6. 蘇伯民「総括」
 7. 図版
- 関連業績
執筆者一覧

『水浸木材の保存修復』（②セ06の一環として実施）

このテキストは、文化財の保存修復の研修に活用するための教材として、脆弱な水浸木材の発掘現場での取り上げ方法を紹介し、適切な保存管理、保存修復、展示までの一連の過程について分かりやすく紹介したものである。（2009年3月発行）

序文

- 1 はじめに
- 2 木材とは
- 3 木材の劣化
- 4 水浸木材の取り扱い
- 5 保存修復処理
- 6 処理後の保存展示環境
- 7 おわりに

参考文献

修復記録カード



Conservation for water logged wood（②セ06の一環として実施）

このテキストは、海外からの研修に活用するための教材として、『水浸木材の保存修復』の英語版を翻訳したものである（2009年3月発行）

Foreword

- 1 Introduction
- 2 What is Wood
- 3 Deterioration of Wood
- 4 Handling of Waterlogged Wood
- 5 Conservation Treatment Process
- 6 Post-treatment Preservation and Display Environment
- 7 Conclusion

References

Appendix



⑥刊行物 Area21

『国際資料室蔵書目録』(③セ08の一環として実施)

本冊子は、今年度に国際資料室で受け入れてデータベース化した1,003点(和漢書347点、洋書656点)の資料、及び国際資料室で所蔵する雑誌438種類を掲載したものである。(2009年3月刊行)

はじめに

国際資料室収蔵図書のカテゴリについて

別表1: 地域・国コード一覧

別表2: 分類番号一覧

国際資料室蔵書リスト

所蔵定期刊行物リスト



『文化財保護関連法令集 イラク』(③セ07の一環として実施)

本冊子は、イラクの文化財保護に関する法令である〈「遺跡及び文化財」法〉のアラビア語原文、和訳および英訳をまとめたものである。(2008年9月刊行)

「遺跡及び文化財」法

Law No.55 of 2002 for the Antiquities & Heritage

同: アラビア語原文



『各国の文化財保護法令シリーズ[3] 日本』(③セ07の一環として実施)

本冊子は、最新の日本の文化財保護法について、文化遺産国際協力センターが作成した英訳、および日本語の原文と主要判決文の要旨を該当条文の後に掲載したものである。(2009年2月刊行)

Law for the Protection of Cultural Property

文化財保護法(主要判決文要旨附)



『各国の文化財保護法令シリーズ[4] ウズベキスタン』(③セ07の一環として実施)

本冊子は、ウズベキスタン共和国での文化財の保護と活用を定めた現行法の和訳とその英訳及び原文を綴じたものである。(2009年3月刊行)

文化遺産物件の保護と活用に関するウズベキスタン共和国法

Law of the republic of Uzbekistan on preservation and utilization of

objects of cultural heritage

Об охране и использовании объектов культурного наследия



『各国の文化財保護法令シリーズ[5] モンゴル』(③セ07の一環として実施)

モンゴル国の文化財保護に関する法律の和訳とその原文、および2009年から2015年までの文化財保護に関する国の行動計画を定めた「歴史、文化的不動産記念物の保護、補修のための国家プログラム」を掲載している。(2009年3月刊行)

モンゴル国の法律 文化遺産保護に関して

Монгол Улсын Хууль Соёлын Өвийг Хамгаалах Тухай

歴史、文化的不動産記念物の保護、補修のための国家プログラム

Туух, соёлын ул хөдлөх дурсгалыг хамгаалах, сэргээн засварлах хөтөлбөр

(参考) 教育・文化・科学省組織図

